

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立南小立野小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒920-0953
石川県金沢市涌波2丁目5番1号
E-mail minamikodatuno-e@kanazawa-city.ed.jp
Website <http://cms.kanazawa-city.ed.jp/minamikodatsuno-e/>
幼児児童生徒数 男子 282名 女子 261名 合計 543名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

児童が探求的な学習の取り組みが推進されるよう、地域や伝統文化を主要テーマとして実践に取り組んでいる。「総合的な学習の時間」で、地域にある有形・無形の文化財を調べたり、体験したりする活動を通して、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探求していった。

① 3年生「金沢の和菓子・行事」

和菓子職人の橋爪さんに、簡単な道具だけで1分足らずの時間で上生菓子作る作業を目の前で見せてもらった。和菓子職人の技のすごさに歓声があがり、子ども達は楽しみながらも真剣に作っていた。橋爪さんから「和菓子作りを続けてきてつらいこともあったが、心をこめて作った和菓子を食べた人が喜んでくれる顔が励みになった。」というお話を聞き、和菓子を通した心のつながりに気づくことができた。体験をきっかけに、金沢の和菓子に関する個々の課題をもち、それを解決するために調べ学習をした。和菓子が人々の生活に根付いていること、和菓子には意味や願いがこめられていることを知ることができた。その後、日本の和菓子についても調べるとい活動につながった。

② 4年生「辰巳用水探検」

校区内を辰巳用水が流れているため、児童は辰巳用水を知ってはいるものの、その歴史や役割についてはほとんど知らない。そこで今も使われている辰巳用水について調べ学習を行った。調べていくうちに辰巳用水を作った板屋兵四郎をはじめとする用水を切り開いた先人たちの知恵や苦労を知ることができた。また、辰巳用水土地改良区の方及び県央農林総合事務所土地改良部の方のお世話による用水のトンネルを見学した。資料から得られなかった気づきや驚きを用水新聞にまとめ、交流会を開いた後、廊下に掲示し、校内に発信した。さらに、一部の用水新聞をふるさと偉人館にも掲示し自分たちの学びを広めた。

③ 5年生「金沢の食文化を学ぶ」

「金沢の食文化を学ぶ」というテーマのもと、「米作り」に取り組んだ。一人一人が米作り体験をするために、マイバケツ田んぼを準備した。籾から苗を育て、育てた苗を田植えし、稲から米が収穫できるまで日々お世話をした。一人一人が収穫できた米はわずかであったが、この体験から育てた米を食べる喜びと農家の人の苦労や工夫に気づき、食への関心が高まった。また、家庭科の学習を生かして、自分たちの育てた米を炊いて食べる計画を立て、実習を行った。

④ 6年生「国際社会の未来」

金沢の歴史と文化をグループで探る「城下町ウォーク」を実施した。金沢城公園、兼六園、長町武家屋敷、歴史博物館などの見学とともに、狂言『柿山伏』を鑑賞した。私たちの暮らす金沢には、素晴らしい歴史と文化があり、それらが伝え残されてきたことを学んだ。これからは、私たちが次の世代へ伝えていくことが大切だと気付くことができた。国語科「町のよさを伝えるパンフレットを作ろう」と並行してリーフレットを作成し完成品を5年生に読んでもらい感想をもらった。全校集会でも発表するなど、残していきたい金沢のよさ（もの・人・こと）に気づくことができるようになった。

道徳「エイズと闘った少年の記録」で HIV/エイズで苦しみ悩む人の存在を知った。そこで、北陸 HIV 情報センターの方から感染者の方々の生活や思いについてお話を聞く場を設定した。どのような理由であれ人を差別することなく、人を大切に思う心が大事である事を学んだ。また、当事者の方々を励ましたいと一人一人が思いを込めメッセージキルトを作った。学習を通して、自分の生き方を見つめることができた。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)



④ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・ 金沢の歴史と文化に関わる施設パンフレット
 - ・ 金沢の偉人に関わるパンフレット
- 等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

主に総合的な学習の時間に位置づけて活動を行っている。社会科の学習と地域の用水のことや、理科の学習とお米作りなど、各学年の教科学習とも関連づけて活動している。

年度末に総合的な学習の時間のカリキュラムをふり返り、指導内容の精選や指導方法の確認等、適切であったかを見直す時間を設け工夫改善に努めてきた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

活動に用いた教材や資料、外部の講師（ゲストティーチャー）などを次年度に申し送り、継続して活動に取り組めるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

カリキュラムにおける評価観点を学習に位置づけることができた。学習活動の取り組みのねらいがより明確になり、一層探求的な学習の展開につながった。

また学校自己評価や保護者アンケートなどでも評価する場面を設け、ねらいに沿った活動が行われているかを見直している。

体験活動を通して児童は意欲的かつ興味を持って活動し、保護者からも好評価を得ることができた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

実践活動や成果を学校便り、学年だよりで随時校外へ発信することができた。また、保護者懇談会や交流会で活動内容を共有し、発信してきた。児童は、総合的な学習の時間で学習したことをまとめ、全校集会で発表している。また、6年生が作ったキルトは北陸HIV情報センターの方の手を通して、広く様々な場で公開されている。今後も、さらに発信・交流を広げていくための方策を探ることが課題である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

金沢の歴史や文化を学ぶために、狂言師の方や能楽美術館などの学校以外の施設や講師の方と連携し学習してきた。また地域の農家の方とも協働し、年間を通じて交流してきた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

地域とのネットワークはあるが、他のユネスコスクール推進校との交流やネットワーク形成においてはほとんど行っていない。今後の課題として検討中である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域素材を多く使っているが、担当学年以外の学習内容や活動は、共通理解の場が少ない。今後、学習の取り組みを職員が共通理解することと、電子データとしても共有できるようにしていくことが必要である。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

地域の自然や人々と関わるにつれて、自然の恵みに気づくと共に、その自然と関わり、文化を育み、守り、伝えてきた人々の存在と、人々の苦勞と工夫や努力を知ることができた。

学習を通して、自分が住んでいる地域をこれまで以上に好きになり、誇りを持つようになっていった。さらに、児童はこれからの自分の行動について考えたり環境や自然を守ったり大切にしたりしていかなければならないという思いをもつことができた。

以上の成果から、平成30年度も継続して活動していき、さらに自然や文化、人々との関わりを広げられるような工夫を検討していきたい。